

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		TODAY'S KIDS		公表日 2026年3月5日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	定員や活動内容に応じ、食事時間を分ける等の工夫をしている。	活動人数が多い場合には十分な活動スペースの確保が難しい場面もあるため、今後も環境調整について継続的に検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	職員間で日々情報共有を行い、子どもの状態に応じた支援配置を心がけている。	利用人数や支援内容に対して十分な職員配置が難しい場面もあるため、安定した人員確保について引き続き検討が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	スロープの設置など、障害特性に配慮した環境整備を行い、安全に過ごせるよう配慮している。	今後も利用児童の変化に応じて、設備や環境面の見直しを行っていく必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	日常的に清掃や整理整頓を行い、活動内容に合わせて空間を使い分けるなど、心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	引き続き清潔で安心して過ごせる環境を維持できるよう、職員間で意識を共有していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	必要に応じて個別で落ち着ける場所を確保し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	個別対応が重なる場面ではスペース確保が難しくなるため、今後の環境調整について検討していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	日々の振り返りやミーティングを通して支援内容を確認し、業務改善につなげる取り組みを行っている。	より多くの職員が意見を出しやすい環境づくりや、改善内容を整理・共有する仕組みづくりが必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	保護者評価をもとに支援内容や関わり方を見直し、日々の支援に反映している。	評価結果を職員間でより分かりやすく共有し、計画的な改善につなげていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	日常の会話や定期的なミーティングを通して職員の意見を共有し、支援の質向上に努めている。	出された意見を整理し、具体的な改善策として継続的に取り組める体制づくりが課題。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		現時点では外部評価を実施していないため、今後導入の可否について検討し、業務改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	外部研修や内部研修に参加し、支援に必要な知識や技術の向上に努めている。	研修参加の機会を安定的に確保し、学んだ内容を事業所全体で共有できる仕組みづくりが必要。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	事業所の支援方針に基づき支援プログラムを作成し、職員間で共有している。	支援内容が形骸化しないよう、定期的な見直しと更新を行っていく必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	日々の観察や保護者との面談を通して、子ども一人ひとりのニーズや課題を把握している。	アセスメント内容を整理し、より分かりやすく記録に反映させる工夫が必要。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員が情報を共有しながら計画作成を行っている。	多様な視点を取り入れられるよう、職員間の意見交換の機会をさらに充実させていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	放課後等デイサービス計画を職員間で共有し、計画に沿った支援を意識して行っている。	全職員が計画内容を十分に理解できるよう、周知方法の工夫が必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	日々の行動観察を通して、こどもの適応行動や変化を把握している。	標準化されたアセスメントツールの活用について、今後検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を踏まえ、必要な支援項目を計画に反映している。	地域とのつながりをより意識した支援内容の充実が課題。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	活動プログラムは職員同士で相談しながら立案し、こどもの状況に応じて調整している。	計画立案のための時間確保が難しい場面があり、業務調整が必要。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	子どもの興味や成長段階に応じて、活動内容が固定化しないよう工夫している。	新しい活動や取り組みを継続的に取り入れる工夫が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別活動と集団活動を子どもの状況に応じて使い分け、無理のない参加を促している。	活動内容やバランスについて、定期的な振り返りが必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	支援開始前に当日の流れや役割分担を確認し、職員間で連携して支援を行っている。	忙しい時間帯でも打ち合わせを確保できるよう工夫が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	支援終了後、必要に応じて振り返りを行い、気付いた点を共有している。	振り返りを定期的に行える体制づくりが課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	特記事項を中心に記録を行い、支援の振り返りや改善に活用している。	記録内容や書き方の統一を図る必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	評価内容を職員間で共有しやすい形に整理する工夫が必要。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	放課後等デイサービスガイドラインの4つの基本活動を意識し、活動を組み合わせ支援している。	各活動のねらいや意図を職員間でより明確に共有していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	子どもが活動内容や順番を選べる場面を設け、自己選択・自己決定を尊重している。	子どもに合った選択肢の提示方法について、さらに工夫していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議等には、日頃から支援に関わり子どもの状況を把握している職員が参加している。	会議内容や共有事項を事業所内で整理し、より分かりやすく共有する方法を検討していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	医療・福祉・学校等の関係機関と、必要に応じて情報共有を行いながら支援につなげている。	連携内容の記録や整理を行い、継続的な支援につなげていく必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	学校との間で下校時刻や日々の様子について日常的に情報共有を行い、送迎時や緊急時の連絡調整を行っている。	共有する情報の内容や方法について、職員間で統一を図っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3	一部のケースにおいて、就学前に利用していた関係機関との情報共有を行っている。	全体としては十分とは言えないため、今後は就学前機関との連携体制の整備を検討していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	卒業や移行が必要な場合には、状況に応じて支援内容の情報提供を行っている。	移行支援の事例が少ないため、今後に備えて引き継ぎの仕組みづくりを進めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	6		地域の児童発達支援センターとの連携については十分ではないため、今後助言や研修の機会を含めて検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		放課後児童クラブや児童館等との交流機会が少ないため、地域との関わりを広げる取り組みを検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5	一部、（自立支援）協議会等への参加を行っている。	継続的な参加や情報収集を行い、地域連携につなげていくことが課題。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	日々の送迎時や連絡を通して、保護者と子どもの様子を共有している。	共有した内容を整理し、支援により活かせるよう工夫していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	必要に応じて、保護者へ支援に関する情報提供を行っている。	家族支援プログラムや研修等の情報提供について、今後さらに充実を図っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	利用開始時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っている。	説明内容をより分かりやすく伝えられるよう、資料の見直しや工夫を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1	放課後等デイサービス計画作成時には、保護者の意向を確認し、意思を尊重した計画作成を行っている。	意向確認の方法について、より丁寧に分かりやすい形となるよう工夫が必要。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ている。	十分な説明時間を確保できるよう、面談方法や時間調整を検討していく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	保護者からの子育てに関する相談に対して、随時対応し、必要に応じて助言や支援を行っている。	相談内容を記録として整理し、支援により活かせるよう工夫していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	保護者会や行事等を通して、保護者同士が交流できる機会を設けている。	継続的に交流の機会を設けられるよう、内容や方法を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情対応の体制を整備し、保護者へ周知した上で、迅速かつ適切な対応を心がけている。	相談・苦情の窓口について、より分かりやすい周知方法を検討していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	通信や一部の情報発信を通して、活動概要等を保護者に伝えている。	定期的な情報発信が十分ではないため、発信方法や頻度について検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報の取扱いについて職員間で注意喚起を行い、適切な管理に努めている。	引き続き職員間での確認を行い、意識の統一を図っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	子どもや保護者に対して、分かりやすい言葉や伝え方を意識して対応している。	視覚的支援ツール等の活用について、今後検討していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0		地域に開かれた事業運営の観点から、地域住民との関わりを持つ取り組みについて今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	事故防止、緊急時、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを整備し、職員へ周知している。	実際の場面を想定した訓練について、今後さらに充実させていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害に備えた訓練や備品の確認を行っている。	訓練内容を見直し、より実践的な取り組みとなるよう工夫していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	服薬や既往歴、てんかん発作等について事前に保護者から情報を共有し、支援に反映している。	情報の更新や再確認を定期的に行う体制づくりが必要。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	食物アレルギーについては、保護者からの聞き取りをもとに対応している。	医師の指示書の確認体制について、今後整理していく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画を作成し、日々の支援の中で安全管理を意識した取り組みを行っている。	安全管理に関する研修機会を確保し、職員の意識向上を図っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	安全に関する取り組みについて、保護者へ周知を行っている。	周知方法や内容について、より分かりやすい形となるよう検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハット事例を事業所内で共有し、再発防止に向けた検討を行っている。	事例の分析方法を整理し、具体的な改善策につなげていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	社内研修等を通して虐待防止に取り組んでいる。	継続的な研修実施と、職員間での共通理解の深化が必要。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	原則として身体拘束を行わない方針とし、やむを得ない場合は事前説明と計画への記載を行う体制としている。	緊急時の対応について、職員間でさらに共通理解を深めていく。